



War Cry

11月号

福音版
2025
November
No.2896

二〇二五年 十一月一日発行

明治二十八年創刊

福音版・毎月一日発行 広報版・奇数月十五日発行

GOOD NEWS
と きの こ えあなたには
帰る家がある

高 島 欣 男

皆さんの人生の季節は今、どこでしょうか。私の季節と変化を少しご紹介します。

妻と私は、救世軍士官（キリスト教伝道者）として二つの小隊（教会にあたる）に赴任した後、年齢的にも節目を迎える頃に、救世軍の社会福祉施設の辞令を受けました。その施設で約十五年近く、働きに携わりました。前半の数年は、未知の分野のため、吸収に努めました。「神様の愛」を利用者と分かち合う。日々の業務にこそ、神様が示してくださる意味がある。それを見いだす学びや研修に熱中しました。人生の季節は真っ赤に燃えるような夏です。

しかし秋は既に訪れていました。施設の現場での出来事とその対応に追われ、愛を行動で表す理想と現実のギャップに私の魂は疲れ果てていました。

同時に「いつも足りない自分」というセルフイメージがありました。人生後半のありがたい姿は、年齢にふさわしい安定感や力量と自信に満ちた姿。でもそうではない自分との間で苦しみました。

人生の締めくくりに入る時期にもかかわらず「まだこれから」と誰かに言われ

ている気がして、青年であるかのように振る舞い、自らを奮い立たせていました。半面、成熟した私という存在を認めてもらいたい欲求と、受け入れられない不満に、憤りを抱えていました。

聖書に、ぴったりの場面があります（ルカによる福音書15章11～32節）。兄と弟の二人兄弟がいました。弟は好き勝手に生き、落ちぶれて果てて父に赦しを乞います。ところが父はこの放蕩の弟子子を赦し、最上のもてなしで受け入れます。一方、いつも父に受け入れられたいと願い、努力を重ねる兄息子は怒り心頭です。自分は父親から受け入れられていない、その不満と憤りで家に入ろうとせず、外の暗闇で震えています。

しかし父は、怒りと憤りに満ちた兄息子を家の外まで迎えに行つてなだめます。父は深い愛の懷に兄息子も抱き抱えたに違いありません。父なる神の待つ家に入るには、最初から、なにがしかの者になることも、承認欲求も必要もなかったのです。

今、私は、一般的に言えば退職年齢に達しました。私の人生の旅を支える霊的

友人から与えられた言葉は大切な贈り物です。

「私（友人）の信じている神様は、あなた（筆者）が伝道者であっても、なくても全く関係ない。どちらにしても変わらず愛してくださいるお方です。」

かつて、なりたいた自分と承認欲求に苦しんだ私。でも今は、その自分を手放し、自分が受け入れられることよりも誰かを受け入れる者に、自分が何者か理解してもらえなくても、誰かを理解する者に、そういう者でありたいと願っています。

実は以前の願望は、自分の傷から目をそらし、自分を守るために覆う鎧であって、それは神様の前に全く必要ではなかったこと。今、鎧を脱いで父なる神の待つ家に向かって歩いていることを実感しています。

現在の任地で、皆さんのそれぞれの人生の季節と霊的な旅を共に歩むことを喜びとしている今、私は冬を迎えます。最後に分かち合いたいことは、私たちには帰るべき家——父なる神の待つ家がある、ということです。その確かな希望をお伝えさせていただきたいのです。

（救世軍士官（伝道者））

共にいてくださる神に 賛美を献げて



ほうさやま

柰山 順子 さん
(救世軍士官)



佐野小隊離任時に(前列中央)

救世軍士官として現在、北海道に遣わされている柰山順子さん。キリストの救いを伝える伝道者として働き、また、救世軍のプラスバンドではトロンボーンを担当して賛美の楽の音を奏しています。信仰に導かれたきっかけから、今に至る歩みの証言です。

信仰に導かれた経緯

私の家族は祖父母と両親、姉と妹、弟の八人で、家には仏壇のある浄土真宗の家庭で育ちました。キリスト教会に行ったことはありませんでしたが、私が高校生の時に伯母が癌で亡くなり、

神田小隊(教会にあたる)で葬儀をしていただくことになりました。これが私の家族と救世軍との出会いでした。葬儀後、家族で小隊へ通うようになり、最初に母が信仰をもち、次々と家族が続きました。しかし、私はすぐに信じる事ができませんでした。

高校三年の十二月二十四日、クリスマスのキャンドルサービスに出席した際、小隊士官(牧師にあたる)から「お祈りしませんか」と声をかけられました。祈ることを拒否し続けていたが、この時は不思議なほど素直に恵の座へ出て行きました。私は「神様がいますなら、なぜ苦しい状況から救ってくれないのですか」という問いかけと、罪責感等の問題を神に頼らず何とかできないものかと、考えを巡らしていました。そこ

ろが、イエス様の十字架と復活を語り、祈る士官の言葉が耳に入ってくると急に私に愛を示し続けるその姿に神様の愛を感じ、内在する罪を認めることへの恐れが取り去られ、悔い改めてイエス様を救い主として信じる事ができたのです。

当時、私はキリスト教や聖書の理解がほとんどなかったもので、なぜ信じられたのか、私に起きた変化と救いの体験を説明することはできませんでした。だからこそ、私が信じ救われたのは神様の恵みによると言うほかありません。

「事実、あなたがたは恵みにより、信仰によって救われました。このことは、自らの力によるのではなく、神の賜物です。行いによるものではありません。それは、だれも誇ることがないためなのです。」(エフェソの信徒への手紙2章8、9節)

賛美を通して知った 神の臨在^{*2}

私がジャパン・スタツフ・バンド(J.S.B.^{*3})の演奏を初めて聞いたのは、一九九五年三月のある集会の時でした。J.S.B.の音色を聞



伯母の葬儀を司式し、家族を導いてくれた士官の引退式で(筆者は右端前列)

いた瞬間、今まで聞いたことのない音色への驚きと、会場の空気がガラリと変わったように感じた体験は、私の理解を超えたものでした。神様を目で見えることができました。目で見えない形で私の体験を証明することはできませんが、私の心は見えない神様に向けられたのだと思います。そして、私は確かに神様がこの場におられることを深く感じ、この時以来、J.S.B.のような賛美を私もしたいという願いが起きました。そして、この次の週、喜びをもって兵士(救世軍の正式な信徒)になりました。

二〇〇六年には、海外の救世軍のバンドの音色を聞いて学びたいと思い、ニュージーランドへ行きました。ウェリントン・シタデル・



福岡小隊時代の社会鍋(筆者は左から2番目)

バンドの音色を聞いた瞬間、私は神様の愛が優しく温かな大波となって私を包み込むような感覚と、聖霊なる神様の働きを感じる体験をし、涙が溢れて止まりませんでした。さらに、神様の愛を自分が勝手に小さくしてしまっていたことにも気づかされました。

J.S.B.での奉仕

高校卒業後、看護師になる道に進みました。看護学生時代は九州の福岡小隊に所属していました。週末、小隊に泊めていただき、士官と寝食を共にする生活は、クリスチャン生活や献身者の生活を知る貴重な時でした。ちょうどこの頃、同じ

*1 救世軍の会館前方にある祈りの場所

*2 臨在一神が共におられるということ

*3 救世軍本部所属のプラスバンド



世界をみつめて

〈インド〉モンスーンによる豪雨災害被災地への支援

2025 年 8 月、インド北部のパンジャブ州とジャンムー・カシミール州は、ここ数十年で最悪のモンスーン災害の 1 つに見舞われました。集中豪雨は広範囲にわたる洪水と土砂崩れを引き起こし、何百もの村や町に甚大な被害をもたらしました。

パンジャブ州では、6,600 人以上が 88 の救援キャンプに避難しました。ジャンムー・カシミール州では、子ども 5 人を含む 7 人の命が奪われ、4 人

が負傷したとのことです。救助活動は今も進行中で、数千人が避難を余儀なくされています。

現地の救世軍は、速やかに 2 つの支援プロジェクトを開始し、最も脆弱なコミュニティに紅茶、小麦粉、豆、砂糖、油、ベッドシーツなどの必要不可欠な救援物資を提供しています。

状況が依然として困難な中、救世軍は救援活動を拡大するために地方自治体やその他の人道支援機関と連携しています。また、緊急支援と長期的な復興計画を継続するための公的支援と寄付も呼びかけています。なお、豪雨は国境を接するパキスタンの州にも影響を及ぼしていて、救世軍は調査訪問を

実施し、政府と話し合っていますが、現時点では対応や人員の派遣はおこなっていません。

(2025 年 9 月 2 日現在)



救世軍とは？ What is the Salvation Army?

救世軍は、世界 134 の国で活動するプロテスタントのキリスト教会で、国際本部は英国ロンドンにあります。1865 年、英国のメソジスト教会の牧師ウィリアム・ブースと妻カサリンによって始められ、東ロンドンのスラム街で、貧困の中に生きる人々に助けの手を伸べつつ、神様の愛と救いを伝えてきました。

日本での活動は 1895 (明治 28) 年に始まり、今年で 130 年を迎えました。現在、全国の小隊 (教会にあたる) での伝道や地域奉仕活動とともに、病院 (ホスピス併設)、社会福祉施設を運営しています。社会福祉施設の分野は、高齢者介護、女性自立支援、児童養護、保育、アルコール依存症者回復支援と多岐にわたっています。各施設では、キリスト教の精神に基づき、利用者お一人おひとりの存在を尊び、健やかな生活が保たれることを願いつつ、日々、働きを進めています。



〈ご案内〉

救世軍インターナショナル・リーダー
リンドン・バッキンガム大將 及び
ブロンウィン・バッキンガム中將 来日間近！



救世軍 全国大会 2025

— 新しい地平線へ —

どうぞお集いください！

11/22 (土) 午後 2 時 入場無料 全席自由 事前申込み制
バンドレイジング・チャリティー・コンサート

於：東京都 中央区立日本橋公会堂

コンサートご入場には予め QR コードからのお申込みが必要です。定員になりましたら締め切らせていただきますのでお早目にお申し込みください。



11/23 (日) 午前 10 時 入場自由
大会聖別会 (礼拝)

於：東京都千代田区 日本教育会館 9 階

11 月 30 日は社会鍋の日

救世軍の特色の一つに「社会鍋」という街頭募金があります。主にクリスマスシーズンにおこなわれますが、近年は救世軍公式ホームページより、年間を通してご協力いただけるようになりました。皆様から託される資金は、街頭生活者支援、高齢者・母子支援、障がい者施設への支援、国内外の災害被災者への緊急支援などに用いられます。11 月 30 日は、一般社団法人日本記念日協会により「社会鍋の日」と認定されています。



☆『キッズ・ゴスペル』コーナー☆ (子ども向け紙面)



左の QR コードから、今月の『キッズ・ゴスペル』を閲覧できます！ 聖書のお話も動画で見られます。ぜひ、ご覧ください！

救世軍公報 ときのこえ

発行日 福音版 / 毎月 1 日、広報版 / 奇数月 15 日
定 価 福音版 / 1 部 40 円、広報版 / 1 部 100 円
(税込) クリスマス特集号 (12 月 1 日号) / 1 部 100 円
振 替 00180 - 5 - 4400
発行兼 救 世 軍
印刷人 代表者 スティーブン・モーリス
編集人 山谷 真
発行所 救世軍本営 <https://www.salvationarmy.or.jp>
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-17
電話 03-3237-0881 (代表)
Mail jpn.editorial@jpn.salvationarmy.org
印刷所 有限会社コーチ印刷



聖書は新共同訳を使用しています © 共同訳聖書実行委員会 © 日本聖書協会 救世軍は、旧統一協会、エホバの証人、モルモン教ではありません。これらの問題でお悩みの方は、下記救世軍にご相談ください。

【取り扱い支部】

救世軍への連絡をご希望の方は、以下の中から該当する項目及び住所氏名をご記入の上、救世軍本営 (左記)、もしくは、上記救世軍にご連絡ください。

- ・私の近くの救世軍を紹介してください。
- ・キリスト教についてもっと知りたいです。
- ・『ときのこえ』の購読を申し込みます。
- ・相談を希望します。